

《ステージ》

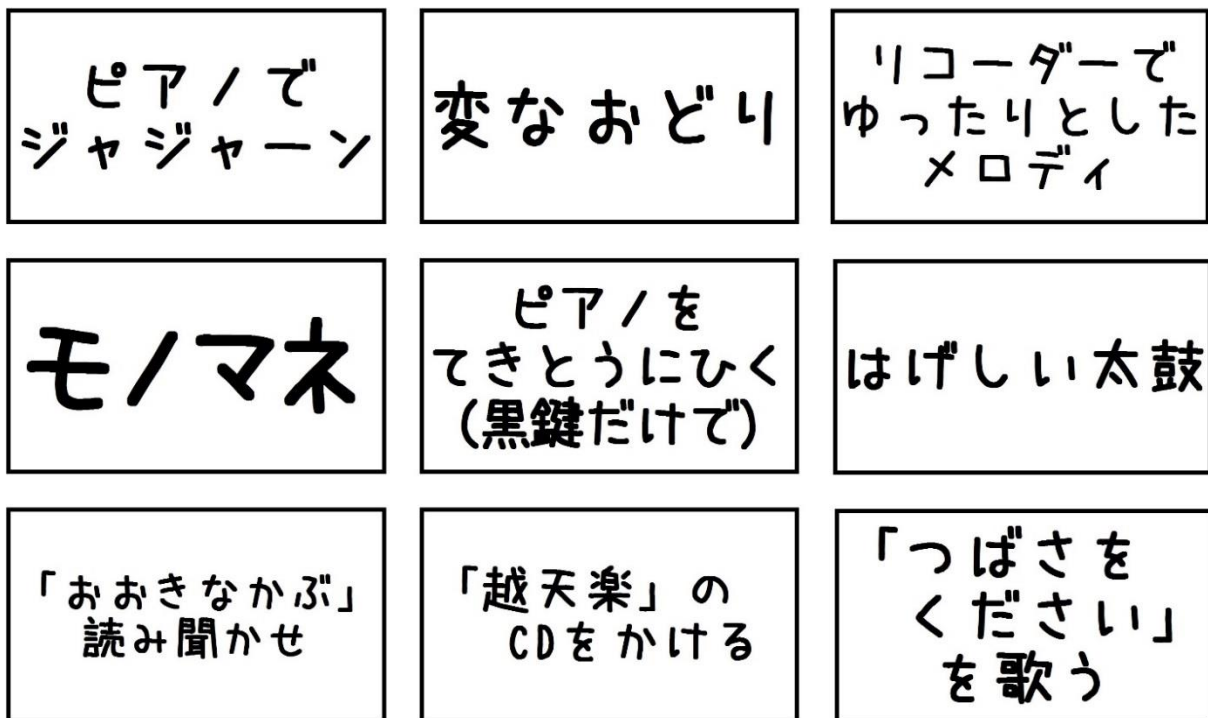
寺内大輔

3～5名程度のグループで、様々な表現を編集して音楽をつくりましょう。
どんな楽器、どんな表現でも使うことができます。

1. 表現カードの作成

まずは、それぞれ自分の得意とする表現や、やってみたい表現を、付箋紙にメモしていきましょう（これを「表現カード」と呼びます）。ひとりが何枚つくってもかまいません。

表現カードの例



例にあるとおり、

- どのような表現でもかまいません。歌、踊り、朗読、お芝居、手品、物真似などのほか、体操、けん玉、そろばん、九九の暗誦などを表現にすることもできます。
- 歌や踊りなどは、自分たちで作ったものでもかまいませんし、みんなが知っているものでもかまいません。
- CDなどを再生するだけの表現があってもかまいません。
- 書き方は自由です。

2. 演奏シートの作成

各メンバーが表現カードをつくったら、グループ内で見せ合ひましょう。

そして、グループのメンバー全員で、その組み合わせ（順序や混ざり合い）を話し合ひながら、演奏シート上に表現カードを並べていきます。わかりやすくなるよう、「→」、「ここまで」などの書きこみをしてもらいませぬ。

およその演奏時間は話し合ひで自由に設定してください。

演奏シートの例（4名での演奏の場合）

さちこ	時々 ポツポツと 音を出す (鉄琴で)	だんだんはげしく	はげしい太鼓
な おみ	ピアノで ジャジャーン ピアノを てきとうにひく (黒鍵だけで)	→	変なおどり ピアノで ジャジャーン
あつこ	だんだんはじめる リコーダーで ゆったりとした メロディ	→	「越天楽」の CDをかける →最後まで
だいすけ	だんだんはじめる リコーダーで ゆったりとした メロディ	→	「つばさを ください」 を歌う → モノマネ

演奏シートをつくるときには、次の4つの点を心がけてください。

- ① 最初につくった表現カードのなかで、使う必要を感じないものがあれば、使わなくてもかまいません。
- ② 何度も使いたい表現カードは、必要なだけ枚数を増やしましょう。
- ③ 何もしない時間があってもかまいません。
- ④ 一つひとつの表現は、「突然始める」こともできますし、「だんだんと始める」こともできます。また、やめ方も、「突然やめる」こともできますし、「だんだんやめる」こともできます。どんな始め方・やめ方にするかも決めておきましょう。
- ⑤ 組み合わせには、正解はありません。みなさんの感覚で、「かっこいい」「おもしろい」「美しい」「かわいい」「笑える」など、様々な価値観に基づいて、一つひとつの表現の効果が高まるような組み合わせを考えてください。

3. 演奏

演奏シートは、書き込み終えたら完成というわけではありません。自分たちにとっての「より良い表現」になるよう、実際に演奏をしてみながら、表現の内容や時間を変更したり修正したりしましょう。なお、演奏するときには、できるだけ演奏シートを見ないでやってみましょう。